

特別支援学校（肢体不自由障害）と小学校との「交流及び共同学習」

<実践の概要>

学 年	特別支援学校	小学校・中学校
	小学部2年	小学2年（通常学級）
交流学习の時間	9時25分から10時10分	
教科・領域等	自立活動	特別活動、生活科、音楽
実 施 時 期	9月下旬	
単元／題材名「地元の友達とお話しよう」		
主 な 活 動 内 容		
本校は、宮城県立こども病院に入院している児童生徒が通う特別支援学校である。本実践の対象児童は、長期入院のため、前籍校とのつながりが薄れつつあった。そのため、直接交流ではなく、まずはオンラインでの交流を行った。		
1. 準備		
1ヶ月前・前籍校の教員に電話連絡をし、居住地校学習の説明をする。 →了承を得たので、計画立案		
1週間前・ビデオ通話の接続テスト ・事前にビデオレターを送り合う		
2. 当日の様子		
(1)あいさつ		
(2)小学校の紹介 主に生活科で取り組んだ町探検の様子をクイズ形式で紹介してもらった。		
(3)特別支援学校の紹介 リハビリで頑張ったこと、校外学習に行ったことを紹介した。		
(4)音楽の贈り物 小学校から、音楽発表をもらった。		
(5)質問 お互いに質問して、答えた。		
(6)感想発表		
(7)あいさつ		

④ あつせーじ み
メッセージをおくろう！見よう！

② メッセージでつたえたいことを考えよう。

③ メッセージをおくってみて、どんな気持ちになったかな？

④ () 小学校からのメッセージを見て、かんじたこと

⑤ リモートでお話しするのは…

図1 ビデオレターを送ったときのワークシート



図1 ビデオレターを送ったときのワークシート

<実践の成果(○)と課題(△)>

- 前籍校の友達や先生から名前を呼ばれ、つながりを感じ取ることができた。
- 前籍校からのメッセージを見たことで、緊張がほぐれ、安心して居住地校学習に取り組むことができた。
- 生活科「町探検」でのクイズを出してもらったことで、楽しく参加することができた。
- △オンライン交流だと、音楽の音割れがあった。
- △オンライン交流だと、自分の姿を見られているという意識が芽生えにくい。

<効果的な取組・実践エピソード等>

- ・事前に動画を送り合ったことで、どんな友達がいたのかを思い出せた。前籍校の先生からも「どんな児童なのかが分かりました。」と言ってもらえた。
- ・交流当日までに、Google アカウントでメールのやり取りを行った。スムーズに連絡を取ることができた。
- ・前籍校の児童は生活科での成果物を発表し、本校の児童は頑張ったことを発表した。両者の発表の音が届くと、とても盛り上がっていた。よい雰囲気での学習することができた。